

## 平成13年度フレッシュマンキャンプ実施報告

学務課学生担当

檀 明

生活福祉科介護福祉専攻では、今年度も昨年と同様の期日設定で、新入生を対象にフレッシュマンキャンプを実施しました。

5月1日（第1日目）朝9時に短大を出発、近畿自動車道、阪神高速を経て、このキャンプ最大の目的である大阪市住之江区南港北にある「ATCエイジレスセンター」に到着。

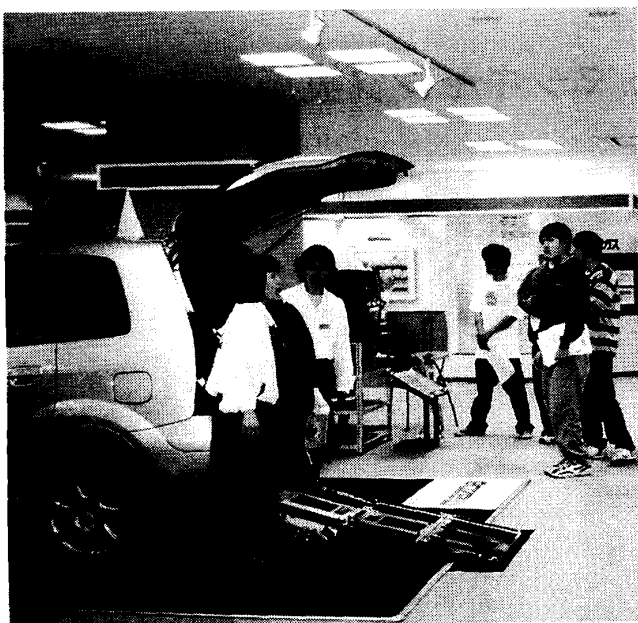
自由昼食、自由行動後、センターに入り職員の方から「ATCエイジレスセンターの概要」を聞いた後、グループ別に見学していく。教員も各グループに分かれて行動していくが、今年の学生は介護福祉士に成る意欲はあるのかどうか様子を見る機会でもある。彼らの中には国家資格がもらえるからという単純な理由が入学動機で、入学して一ヶ月、少しは友達も出来たが授業では「福祉、福祉」と

言われて難しく、出席も厳しくて意欲が出ないと思っている学生にとっては、久しぶりに都会に出て気分転換も出来るので、自分自身を見直す良い機会でもあり、教員も学生同志も学内では気づかない側面を知ることになる。

見学コースの「バリアフリー体験」ゾーンでは、積極的に車椅子に乗ってキャンプハンディを体験したり、駅の改札口を通る幅や切符の自販機の高さに対して、利用者を制限している公共の現場での困難さを実感していく。この様に実社会に



受理：2002年1月23日（成美学会）



関連した場面で、見学者には「当たり前」と思っていた「日常生活の暮らし方」について、高齢者や障害者に対する意識の変革を求められ、福祉用具の考察とバリアフリー環境の構築への有効なシュミレーションとなって、社会福祉の領域を広く知るきっかけとなることを願うのは、あまり興味の無かった教科にも意欲を持って欲しいと望むのは早急かも知れない。ここでの展示で、障害の有る人無い人、すべての人が住みやすい町とは、暮らしやすい環境を造っていくことは、自分自

身も住みやすい環境を創造していくことであることへのキーワードであることに気づいてくれたらどうか。様々な思いを巡らしながら見学を終え、宿泊地のホテルに到着。少し休憩後「介護福祉専攻ミーティング」「ゼミナール希望調査と決定」「新入生歓迎パーティ」など、楽しく過ごし、本日の予定はすべて終了。あとは、このキャンプを通じて学生相互の親睦、あるいは教員と学生の交流を可能な限り図る意味で会話が弾むのは良いが、部屋間を移動して迷惑をかける行為が深夜まで続いたことはとても残念であった。

5月2日(2日目)ホテル出発後、京都府木津町のハイタッチ・リサーチパーク内にあるセキスイ総合住宅研究所「納得工房」を見学する。この研究所へは近畿の福祉系短大、大学が良く利用するところで、平成7年長寿社会対応住宅設計指針の公表と同時に「バリアフリー設計」を実際に展開して行く為の実験工房を開設している点で、住宅の建築施工現場や建築用材、設備機器など実際に手で触れて確かめられることや、部屋の内装を高齢者対応として模擬的に改装する装置などがある。学生には、企業側の超高齢社会に向けての独自の研究方法を知ることが大切で、企業にとっても消費者である見学者(学生)の反応を参考に、今後の取り組み方を模索している。約2時間の見学を終え、無事、事故も無くキャンプ日程を終了することが出来た。

